No	Fig	説明
<b>0</b> はじめに		FMbat(の概要 FMbat(個人診療所での保険診療に適合させた"電子カルテ兼レセコン"のソフトセットです。皮膚 科・形成外科の専門診療に特化した状態になっていますが,他科でも項目を変更・拡張で適合できる と思います。 毎日の診療の窓口計算,領収証,明細書の発行,窓口での代金請求と毎月の電子レセプト作成(オンラ イン請求)が可能です。病名整備に伴う診療行為,処方との整合性チェックも可能です。電子カルテ の内容は随時1日毎にまとめて印刷可能です。 FMbatは 10の Filesで構成されています。それらがrelationでつながっています。 A_PTINFO受診者の個人情報,保険情報の基本Fileです。 B_DAILYB日々の診療計算,窓口事務のためのFileですが,N Fileから自動入力されます。 C_RECEPT月ごとの保険請求,電子レセプト作成のためのFileです。 D_RAWDATB,Cに共通する診療基本データ,個々の診療項目が1レコードとなっています。 E_DIAGNS受診者の病名データ,受診者の病名1件が1レコードになります。 F_PRESCP日々の受診ごとの院外処方データ,院外処方箋として発行されます。 H_MASTER診療行為,病名,薬品マスター,院内で使いやすくするために再編しています。 N_DOCTOR診療録データ,医師の記載するカルテです。 P_PTLIST窓口会計,保険診療,保険以外の項目も含めて1日の会計が合算できます。 R_FLOPPY電子(磁気)レセプト,これをさらにPlain text(Receiptc.uke)として書きだします。 なお,氏名,保険情報等のサンブルデータはすべて架空のものです。また,保険規則,保険点数,薬価 は 2014年4月時点のそれを,特別医療制度は鳥取県のものを適用しております。
<b>]-]</b> A_PtInfo	O         L Plinfo           OS         EXPENDING         EXPENDING	Fileの展開 FMbatのソフトセットはFilemaker serverで展開してFile共有することが勧められますが、 Filemaker ProのFile共有機能を使う場合は、まずA_PTINFOを立ち上げます。(同時に P File も自動で開きます。)A Fileの"開閉"ボタンで"開く"からすべてのFileを開きます。最初にFileを開い たマシンがServerになります。なお最後に閉じるときは、同じボタンから、"閉じる"を選択して終了 したほうが安全に終了できます。 単独使用のときはこのA Fileから 順次、好みのボタンを押すことで他のFileも適時開かれます。 D, E,F,H Filesは表面に出なくても随時バックグラウンドで稼働します。
1-2		iPad専用画面 iPadで A Fileを開いたときは 左の画面が出ます。その他 B, C FileにもiOS専用の画面で移動できる ようにしましたが, すべて操作がiOS画面で完結するようにはできませんでした。なるべく"iOS"ボ タンを各所に設定して, 通常画面にiOS画面に戻りやすくしました。ボタンを大きくしてみましたが, タッチペンの使用をお勧めします。
1-3 A_PtInfo		<ul> <li>受診者基本情報</li> <li>新しく受診者が来院したときに、A Fileで新規レコードを作成します。既受診者の保険情報、個人情報に変更があれば、その都度修正します。月の途中で保険が変わるときは 受診者のPre (1ケタ文字、通常は0, 順次 A, B)で同じ受診者でも保険情報が異なる場合に対応します。別保険は、不要になれば、適時削除します。すでに診療が終わったあとで後日保険の変更を申し出られたときは後述 (4-4)のごとく変更処理を行います。</li> <li>"今日の受診"ボタンを押すとその受診者のその日の診療録(N)、日々の診療計算(B)、その月のレセプト(C)Fileにレコードが作成されます。右の過去の受診歴ポータルの日付Fieldをクリックすると Bの日々の診療画面に移動します。</li> <li>上の"今日"のボタンを押すと、P Fileの今日の受診者一覧が アクティブになります。</li> </ul>
<b>2-1</b> P_PtList	Immed Pit     7922       ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	<ul> <li>会計画面</li> <li>受診した順に受診者がリスト表示されます。診療する医師,窓口スタッフともに,この画面で診療の進行状態を把握することができます。</li> <li>"しめい"フィールドをクリックすればNに移動しますし,(3-1:医師の操作)</li> <li>"診察券番号"フィールドをクリックするとB Fileに移動します。</li> <li>窓口スタッフは,通常,A File(受診者登録,受診受付)とこのP File(会計)を行き来しながら業務をこなすことになります。</li> <li>左の黒○でBの医師の診療(確定計算)が終了したかどうかが分かります。</li> <li>オレンジ○は院外処方の有無,緑○を押せば領収証,明細書が発行されます。これでその日の診療窓口業務は終了です。</li> <li>P File(今日の受診者)のサンプルデータ</li> </ul>
<b>2-2</b> B_DailyB		<ul> <li>2014/9月/2,3,4,5,6,8,9,16,17 2014/10月/2,9,18 にデータがあります。</li> <li><b>明細書兼領収証確認画面</b></li> <li>診療が終了してから、上記のP Fileの縁○を押せば領収証,明細書が発行されます。左の画面は確認画面です。P Fileからの操作では画面に出ません。</li> </ul>
	B 0 0 0 N_Doctor 211 211 211 211 211 211 211 21	<b>診療録(カルテ)</b> 医師が操作します。通常, "病歴一覧"レイアウトを開きます。 医師のカルテに相当するFileです。左から, 指示(処置,検査), 処方, 病歴となっています。病名は病歴 内に記載します。 指示等の記載が完了したら, "完了まで"ボタンで データをBに転送します。, あとはB画面で指示が

417 2014/04/14 CO

1076 5014

正しく転送されたことを確認します。あとで指示を変更したときは"転送まで"ボタンをおします。B



R_Floppy	1       195       006       CO,70,1,89000001,1015         1       195       007       SI,1,170000410,2,1,1,	<ul> <li>保,国保を取り違えないようにします。そのFileを オンライン請求すれば,保険請求は完了です。</li> <li>以上の操作で注意点は,R File作成までは Windows, Mac, いずれのマシンで作成してもかまわないのですが,Receiptc.uke(plain text)の改行形式が MacとWindowsで異なります。オンライン請求のマシンがWindowsでしたら,R FileをWindows マシン上のFilemaker上で開いて,Receiptc.uke Fileを書き出されなければなりません。これを守らないとオンライン請求時にエラーが出て,前に進めません。(裏技あり:8-6)</li> <li>保険情報・個人情報書き出し</li> </ul>
<b>7-7</b> C_Recept		A Fileの保険情報・個人情報とも随時変更しますので, 月初めに全受診者の前月のA Fileデータが plain text形式で書きだされます。 その中に,その月に受診した日も(受診日: 9.6.5.4.3.2.)のように表 示されます。 それを月ごとにまとめてワープロソフト(OpenOffice など)にCopy&Pasteで印刷しま す。
<b>8-1</b> os		OSの種類, Version MacOSで開発しましたが, AppleScript, 外部関数などは使用していません。Windows 7でも同じよ うに動くことは確認しました。ただ, 原因がよく分かりませんが, Windows7にFileを保存して,最初 にA Fileを開いたときに関連Fileが開かなくて"xxx Fileが見つかりません"というエラーが出まし た。指示に従って, Fileを開けてゆくと, 二度目からは問題無く開くことが確認できました。 Filemaker v12でも動きますが, B Fileのレイアウトがおかしくなりました。v13での稼働をお勧めし ます。(MacOS 10.8)
<b>8-2</b> データ削除		<b>すべてのデータ削除</b> File内のすべてのデータを消して,新しいFileを作る方法として,メニューのファイル>名前を付けて 保存>データなしのコピー,の方法をとると,グローバルFieldの値が消えてしまいます。特に オブジ ェクトFieldの画像が消えて,不都合が生じる可能性があります。特に,C,N Fileはご注意ください。 Fileをそのままにして"すべてのレコードを削除"の上,新しくデータを入力されることをお勧めしま す。レコードをすべて削除するときはH_Master File以外,すべて消してください。 診察券番号は現在は原則何ケタの数字でもOKですが,v6以前はrelationの都合上5ケタ(99999以下の 数字)に設計していました。一部のField定義,Script記述にその影響が残っているかもしれませんの で,当面は5ケタ以下の数字で試行されることをお勧めします。
<b>8-3</b> 競合	EleMaker Pro     0000     0000       CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     0000     0000     0000       CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     0000     0000     0000     0000       Status     CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     0000     0000     0000     0000       CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     0000     0000     0000     0000       CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     0000     0000     0000     0000       CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     0000     0000     0000     0000       Status     CoLDKidz toCLB0070/2/KPOroggino     0000     00000     0000     0000 <tr< td=""><td>ケータの脱音(1) 各Fileが複雑なrelationで繋がっているので、一人で使っていても、ときどき"影を踏む"現象(競合?: "このレコードは別のウインドウで変更中のため、このウインドウでは変更できません"…の警告)が おこります。特に B, C, N File間のデータ転送(Script)に起こりやすいようです。実際に何処のフィ ールドが競合しているのか特定できないこともあります。解決策として、A, P Fileに赤色の"回避"ボ タンを作りました。これを押すと、A-P-C-B-N-AとFile間を、アクティブレコードを変更しながら、 File間をLoopして、競合状態を解消します。目的のFileに戻って、黄色の"復帰"ボタンを押すと、その Fileだけ従前のレコードの画面に戻りますので、その状態ならたいがい競合せずに処理できます。こ のトラブルは、個別に、原因となっている部分を突き止めれば解決できることだと思います。</td></tr<>	ケータの脱音(1) 各Fileが複雑なrelationで繋がっているので、一人で使っていても、ときどき"影を踏む"現象(競合?: "このレコードは別のウインドウで変更中のため、このウインドウでは変更できません"…の警告)が おこります。特に B, C, N File間のデータ転送(Script)に起こりやすいようです。実際に何処のフィ ールドが競合しているのか特定できないこともあります。解決策として、A, P Fileに赤色の"回避"ボ タンを作りました。これを押すと、A-P-C-B-N-AとFile間を、アクティブレコードを変更しながら、 File間をLoopして、競合状態を解消します。目的のFileに戻って、黄色の"復帰"ボタンを押すと、その Fileだけ従前のレコードの画面に戻りますので、その状態ならたいがい競合せずに処理できます。こ のトラブルは、個別に、原因となっている部分を突き止めれば解決できることだと思います。
<b>8-4</b> 競合	FileMaker Pro         owner (こう) がこのレコードを編集中です。編 集が終了するまでこのレコードは使用できません。         メッセージを送信…	データの競合(2) 多人数で使用中の場合の競, 特定のFieldの書き込みが競合したときは, エラーメッセージにユーザー 名が出ますので, そのユーザーに"回避"を促します。Filemaker Serverを使用中のときは, 相手にメ ッセージを送信できます。8-2の紅い"回避"ボタンを押すとすぐに回避できます。
<b>8-5</b> オンライン	アイートドラークのエクスペート項         アメールドをまついたりを表明して後します。アークをグループ化する場合は、後のフィルドを基準する時に、(グループ化の法律)         現在のレイアクト(「雪古出しー・・・)         取合のしくアクト(「雪古出しー・・・)         取合のしくアクト(「雪古出しー・・・)         取合のしくアクト(「雪古出しー・・・)         取合のしくアクト(「雪古出しー・・・)         取合のしくアクト(「雪古出しー・・・)         取合のしくアクト(「雪古出しー・・・)         のこのが原本目的にない         取合のしくアクト(「雪古出しー・・)         アメールドクロ・フィントをまたのしくアクト(「白本日」)         アメールドウェンクスポートを目したのからの(日本日」)         アメールドウェンクスポートを目したのからの(日本日」)         アメールドウェンクスポートを目したのからの(日本日」)         オブジョン         ガンフィルロシマト):         日本日 (Shin-JIS)         ・         サンフィルロシマト):         日本国 (Shin-JIS)         ・         ・         エクスポートされたデークに現在のレイアウトのアーク雪茸式を進用する         ・       キャンセル)         エクスポートされたデークに現在のレイアウトのアーク雪茸式を進用する	オンライン請求 補足 (1) オンライン請求のFile(Receiptc.uke)の書き出しは, 左のように, Fieldのエキスポート順:"R033表示 内容_PreX", 出力Fileの文字セット:"日本語Shift-JIS"を選択してください。File名 が"Receiptc.uke.tab"になっていたら, ".tab"を消してください。
8-6 オンライン	<ul> <li>▲前: Receiptc.uke</li> <li>場所: ■:::::::::::::::::::::::::::::::::::</li></ul>	オンライン請求 補足 (2) オンライン請求マシンのOSの違いについて, 7-6でも述べましたが, MacOSでReceiptc.ukeを出力し た場合, それをWindows型に変換する方法があります。ワープロソフト"Jedit X"で, ファイル> 別名 で保存 のときに, 左のようにエンコーディングを"日本語(Windows, DOS)", 改行タイプ を"Windows(CRLF)"にして保存します。そうすれば, このReceiptc.uke FileをそのままWindowsマ シンでのオンライン請求に使うことができます。 実は, こう書いたあと, 重大なエラーに気がつきました。MacでR FileからReceiptc.ukeをはき出す と, そのなかの被保険者の記号・番号の全角のハイフン"ー"が消えてしまうようです (tab形式でもコ ンマ区切りでも同じです, v11,v13でもこの現象を確認しました)。Windowsではき出した場合は問 題ありません。Jedit以前の問題です。Filemakerのバグでしょうか?
8-7 オンライン		オンライン請求 確認試験 このFMbatのサンプルデータで電子レセプト(Receiptc.uke)を作成し, オンライン確認試験を試みま した。 受付不能にはなりませんが, 医院名, 保険者番号が架空のものですので, それらの点が"要確 認"になりました。診療項目の表現のエラーは表示されませんでした。
<b>8-8</b> 不要Field 不要Script	レポートの概要       デー       リレーシ       レイア       値一覧       スク       カスタム         ブル       コンシッ       ウト       リブ       関数       ト          A_PTINFO.fmp12       1       14       14       21       67       6         B_DAILYB.fmp12       1       45       38       24       242       2         C_RECEPT.fmp12       2       40       29       27       130       4         D_RAWDAT.fmp12       1       13       3       1       6       4         E_DIAGNS.fmp12       1       9       5       2       11       0         F_PRESCP.fmp12       1       4       2       0       0       0         H_MASTER.fmp12       1       4       15       4       51       0         N_DOCTOR.fmp12       3       23       19       11       139       0         P_PTLIST.fmp12       1       10       8       6       39       1         R_FLOPPY.fmp12       2       7       5       3       23       2	不要なField, Script 2年ごとに医療保険診療規則が改定されます。そのたびにField定義, Scriptの作成,更新を繰り返していますが,過去の不要なField, Scriptがどうしても残骸のように残ってしまいます。特に,受診者のPre,受診者番号,受診日,回数の情報をひとつの文字(15字)にしてv6以前はrelation keyとして使っていました。v7以降は,それを Get(スクリプト引数)で渡すScriptがデータ転送に便利なので,このシステムをところどころ残していますが,今はrelation keyとしては使っていません。 さっさと不要なものを削除してきれいにしたいのですが,難しいのは,思わぬところで 現在も使われていたりすることがあると,それらをいきなり消してしまった場合,削除でシステムが誤動作することもあります。誤動作に気がつかないで,使い続けると不良データが蓄積され,恐いです。この FMbatセットにはまだ不要なものが残っているはずです,全部クリーンに出来ていません。ご容赦ください。なお,左はFMbatのデザインレポートです。